

平成28年2月14日

学校教育自己診断の結果について

肯定的な意見（①よくあてはまる、②ややあてはまる）と否定的な意見（③あまりあてはまらない、④まったくあてはまらない）に分け分析を進めた。

1. 生徒（1年：285〔名〕、2年：225〔名〕、3年：182〔名〕）

（生徒について）

- ・全体として肯定的な意見が昨年度より増加している。（H26年度 62.5%→H27年度 66.8%）
- ・特に、「担任以外に相談できる先生がいる」が全学年で16～20%増加しており、生活指導部をはじめとする教員の丁寧な指導が実を結びつつある。
- ・生徒の学力が大ききひらきがあるためか、「授業はわかりやすくおこなわれている」は、平均では増加（H26年度 60.3%→H27年度 66.2%）しているが、自由記述では授業がわかりやすいという生徒もいる反面、わかりにくいという意見もあった。教員の授業力向上のため公開授業や研究授業を積極的に進め、「わかる授業」「考えさせる授業」を展開したい。
- ・「学校行事は楽しく行えるよう工夫されている」、「命の大切さや社会ルールについて学ぶ機会がある」は、学年によっては、肯定的な意見が減少しており、生徒会活動の活性化の推進や生徒に各種イベントに積極的に関わるように指導すること、発達段階に応じた人権教育、学年別の人権教育の推進を図る必要がある。
- ・自由記述でトイレの洋式化や美化についての意見があった。予算面の事もあるが関係方面に働きかけたい。他校ではトイレを改善することで生徒の学校生活を快適にするだけでなく落書きが減るなど生徒のモラルアップにつながるとの報告もある。

2. 保護者（241〔名〕）

- ・全般的には、肯定的な意見が70%を維持できている。
- ・「学校行事に参加したことがある」の項目で肯定的な意見が減少しており、Webページなどによる行事予定の配信など、更なる情報発信をおこなう必要がある。
- ・自由記述で、授業中騒がしいと生徒や保護者からの意見がある。授業時間中の教員による巡回指導などを行っているが、さらに生徒が授業に集中できる体制を整えたい。

3. 教員（59〔名〕）

- ・「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導をおこなっている」、「生徒一人ひとりが興味・関心・適正に応じて進路が選べるようきめ細やかな指導がおこなっている」「生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の項目で肯定的な意見が増加しており教員自身が生徒に寄り添った丁寧な指導を意識していることを示している。
- ・自由記述で組織だって対応していない、個人的な力に頼りすぎているという意見がある。平行して「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」「教育活動全般にわたる評価をおこない、次年度の計画に活かしている」の否定的な意見が増加している。風通しの良い職場づくりやPDCAサイクルによる教育課題改善の取り組みを推進していきたい。